



『生きがい・自立・奉仕・助け合い』

ナルク丹波

里山だより

NPO (特定非営利活動) 法人  
ニッポン・アクティブライフ・クラブ  
ナルク 丹波 (愛称・里山)

〒669-2355 兵庫県篠山市大野 282-3

「ホット介護さかい」別館内

電話 (FAX) 079-552-1128

<http://nalc.tamba.tv>

2012年 1月 7日 第 123号

会員数 73世帯・111名 (12月末日現在)

明けましておめでとうございます。

事務局長 笹倉 武史

## 平成24年 「ナルク丹波」子育て支援4活動

★「ナルク丹波」設立12年目に入りました。老人施設等に入らずに、自宅で自立を目指す高齢者を支援する

「通院支援と家事援助」、中高年会員の持つ経験や資格、趣味や特技を活かした「青少年の健全育成・子育て支援」を活動の2本柱に据えて活動を開始。農業が中心の田舎でのボランティアの難しさと対峙しながらの11年、会員数は増えもせず減りもしない現況の中で、活動に参加して来られた会員さんに厚くお礼を申し上げます。又新しい年が巡って来ました。気合を入れなおして24年度の活動に取り組めます。ご支援とご協力をお願いします。

「子育て支援4活動」を初心に帰り、経験を活かして推進・発展させます

## ① 「丹波ごちゃまぜ自然体験～2012～」(子どもゆめ基金に助成金申請中)

子ども達の自然体験が年々減少している、自然体験の豊富な子どもは自律性・協調性・積極性が身につけている者が多い傾向にある、自然体験の機会を提供することが重要。と国の『青少年白書』は云う。そうであるならば丹波は自然の宝庫、この財産を活かして「子育て支援活動」を推進したいと始めた「丹波ごちゃまぜ自然体験」は今年3年目を迎えます。一昨年は夏と秋に一泊キャンプと自然体験活動を実施。50人位が参加してくれれば成功かな?の予測に反して夏・秋合わせて214人もの子どもたちが参加。昨年は夏だけの開設で157人が一泊キャンプと自然体験を満喫してくれました。昨年参加した子ども達から年賀状をいただきました。もう子どもたちは今夏の「丹波ごちゃまぜ自然体験」を楽しみに待っていることを伺わせてくれます。

★子どもの外遊び・群れ遊びには怪我や事故が怖い、と尻込みする団体がありますが、事前準備に万全を期し、自然体験地の現地視察と事故に備えた予行演習・訓練に抜かりがなければ怪我や事故は未然にふさげます。2年間の経験で「事故やケガも無く、立ちふさがる障害を乗り越えた後には、大きな喜びが待っている」ことを知りました。もう60年も前の子ども時代、台風接近をラジオで聞きながら、怖いと思いつつも、それ以上に心がウキウキするような高揚感にわくわくしながら台風の上陸を待っていた事を思い出します。

そんな少年時代の思い出は60年経った今でも忘れません。子ども達の心に60年後にも懐かしく楽しい経験として思い出させる、そんな「丹波ごちゃまぜ自然体験」を開設します。とはいえ、「子どもゆめ基金」の助成金が無ければできません。助成金の可否決定は4月5日頃。助成申請額は60万円。OKならば夏休みに6回の一泊キャンプと自然体験満載の「丹波ごちゃまぜ自然体験～2012～」を開設します。助成金がゼロならば?

そんな事態は想定外です。今から準備に取り掛かります。

自然体験豊富な中高齢者の活動への参加を呼びかけます。

地上25mのツリーハウスに登れる中高齢者の「ナルク」への入会をお願いします。会員登録が無いと事故への保障が・・・。



## 平成24年 「ナルク丹波の子育て支援4活動」・・・その2

### ② 『学童保育支援活動』（つくって遊ぼう）

「ナルク丹波」設立と同時に活動を開始した『学童保育支援活動（つくって遊ぼう）』は12年目に入ります。23年度は丹波市氷上町の「しろやま児童館」で毎月1回・第3土曜日に25人の子ども達（1年生～3年生）に「手づくり遊びや昔の遊び」の伝承活動として実施。1月21（土）は9時～11時迄、2つの手作り遊びを伝承します。「伝承」と言えば大げさですが、指導する会員5～6人も子供と一緒に遊ぶだけ。笹倉事務局長は11年間一度も休まぬ皆勤賞ですが、手先が不器用で細かな作業が苦手。つくり方は指導せず、つくったもので遊ぶだけ。21日は①「ぐにゃぐにゃ凧」と②「はじき猿」をつくって遊びます。①は風が無くてもよく揚がる「ぐにゃぐにゃ凧」。

児童館の隣の空き地で子どもたちと70のおじいが凧上げ競争。70のおじいの凄腕の見せどころです。よたよた転ばないことを祈っています。春休みや夏休みには「つくって遊ぼう」の出前開設、丹波地方の各地で年間20回程度の活動です。



### ③ 「里山・子どもの冒険ひろば」（兵庫県青少年本部の補助事業）

全国ネットのボランティア団体「ナルク」（ニッポン・アクティブライフ・クラブ：NALC）は「中高齢者の生きがいつくり」の一環として『青少年の健全育成・子育て支援活動』を全国の拠点で推進しています。活動の内容は拠点ごとに様々です。「ナルク丹波」は公園や里山を活用した子どもの外遊び・群れ遊びの奨励活動として設立以来11年間続けています。今年は里山を活用した「里山・子どもの冒険ひろば」が中心です。子どもたちが自然の素材（石や土、木や水、草や葉っぱ）を相手に禁止事項を出来るだけ少なくして、「自分の責任で自由に遊ぶ」ことをモットーとしており、大人は子供の遊びを黙って見守る。遊びのアイデアやヒントを与えるだけで子ども達を自由に遊ばせる。この主旨に沿っての開設です。今の子どもは忙しい。小4位になりますと塾や習い事、部活等で忙しく、里山などでは遊べません。それでも里山に遊びに来る上級生の子どもも大勢います。こんな子ども達に塾や部活以上の知識や体力向上を身につけさせてやりたい。そんな思いと願いで孫の世代の子育てに取り組んでいます。この活動は県の補助事業です。



補助金が無くなれば「どうされますか？」と聞かれますと「補助金が無くなれば、この活動は即

やめます」と応えます。

国や県が『青少年の健全育成』への補助金を取りやめる、ということは青少年の健全育成を願わない、と云う風に受け止めます。

無償のボランティア団体に国や県の肩代わりは引き受けません。

期待を背負った民主党、しっかりせえ。全員落選必至。関係ないか。


#### ④ 「里山保全と『ナラ枯れ』防除を地域の小学校との共同で行う」

地域の2小学校から「自然観察授業」が、この「里山ごんげんさん」で行われるようになり2年経過。この里山に「ナラ枯れ」の脅威が迫っています。枯れ死菌を媒介する「カシナガ」虫が樹齢50年以上の大木に大量に入り込んでいる。この木は今年枯死、新成虫が他の大木に移住する、という。次号へ

### 「ナルク丹波」10年の歩み・会報誌「里山だより」から見る・その①(1~6は前月号に)

平成17年 7月23日	<b>第2回「里山イベント」開催。</b> 丹波市氷上町谷村の民有林を無償でお借りして、里山の再生復活活動に取り組み、「子どもの冒険ひろば」を開設。丹波地方の全域へのPRを兼ねて、子どもの冒険ひろば+「里山音楽会」+『お楽しみ屋台村』の3点セットのイベントを開催。子ども63人、地域の大人60人、ナルクの会員12人が参加した。	
8月11日	「ナルク丹波」主催の「3世代交流・ゲートボール大会」開催。篠山市「四季の森運動公園」にて、地域の大人チームと西脇市の子どもチーム「コモキッズ」の交流試合を行い「コモキッズ」が2勝1敗と大活躍。3世代の交流を楽しんだ。	
8月15日	「里山ごんげんさん」に井戸水湧出。「子どもの冒険ひろば」や「里山イベント」には飲み水や手洗水が必要。近くの民家から水道水をもらい、ポリタンクで運ぶも不便この上なし。「里山づくり連絡会」が井戸を掘り、地下7mからの汲み上げに成功。丹波保健所から優良水のお墨付きをいただいた。	
8月20日 25日 26日	<b>夏休み・子育て支援3連発。</b> 丹波市氷上町の2つの児童館で児童100人を対象にテントの下で「木工遊び」を開設。ノコギリや金槌の指導をしながら、夏休みの宿題、木工作品づくりに取り組んだ。	
平成18年 1月18日	篠山市『大沢I号公園』で雪合戦。毎週水曜日の午後2時~6時まで、公園を活用した「子どもの冒険ひろば」を開設している。公園に積雪5cm。雪の舞う中雪合戦を楽しんだ。	
3月25日	<b>霊峰・白山頂上に80人。</b> 地域ぐるみの子育て支援をめざし、「3世代交流」活動として氷上町の霊峰白山登山を企画。子ども45人・地域の大人38人・ナルクの会員11名ら90人が547mの頂上でお弁当。宝探しもあり、地	



	域のテレビ「サンテレビ」で放映された。	
9月23日	<p>里山・古墳祭りと冒険遊び。「里山ごんげんさん」の一角にある大きな古墳。密林状態の古墳の周辺の開拓、整備が進み、古墳の周辺地が随分明るくなりました。記念して古墳祭りを開催。</p> <p>子どもたちは「月見団子」をつくりお供えしました。</p>	
平成19年 2月17日	<p>世代間交流と地域のコミュニティーの役割『身近な子育て応援を考える』と題するシンポジウムが東京で開催され、丹波の笹倉事務局長がパネリストで出席。ナルク丹波の7年間の子育て支援活動を詳細に報告発表しました。主催された(財)子ども未来財団の会長が「世代間の絆を復活させ、真に豊かな国づくりを」と挨拶された。それを受け、司会者が主催者に何か言うことがあればどうぞとパネラーに振って来られた。笹倉氏は「こういったシンポジウムも大切なことですが、ボランティア団体の事務局長としてお願いしたいことは、子育て支援活動に助成金を出すことです。助成金があれば身近な子育て応援活動は随所で活動が始まります。助成金を出して下さい」と本音を吐露しました。</p> <p>500人の会場から笑いと共に大きな拍手がしばらく鳴りやみませんでした。</p> <p>翌年、(財)子ども未来財団からナルク本部に大きな助成金が入るようになり、その助成金で全国各地の「子育て支援」の研修会が開催されるようになりました。成果は？ 知らん</p>	

### 「ナルク丹波」1月～2月前半 主な行事

日程	曜	行事内容	場所・会場・時間
1月 7日	土	「里山・子どもの冒険ひろば」開設、 定例会・・・「里山だより1月号」発行、各種行事確認	「里山・ごんげんさん」 10時～15時
1月 14日	土	「里山・子どもの冒険ひろば」開設 「ナラ枯れ」対処開始、	「里山・ごんげんさん」 10時～15時(積雪開催)
1月 21日	土	①学童保育支援活動(つくって遊ぼう) ①「風が無くてもよく揚がるぐにゃぐにゃ凧」 ②「はじき猿」 ②「里山・子どもの冒険ひろば」開設(10時～16)	氷上町石生『しろやま 児童館』9～11時 「里山ごんげんさん」
1月 28日	土	「里山・子どもの冒険ひろば」開設 「ナラ枯れ」防除、枯死木切り倒す。	「里山ごんげんさん」 10時～16時
2月 4日	土	定例会 「里山だより」2月号発行、各種行事確認 「里山・子どもの冒険ひろば」開設(10時～15時)	「里山・ごんげんさん」 10時～15時(雨天開設)
2月11日	土	「里山・子どもの冒険ひろば」開設10時～15時	「里山ごんげんさん」
2月15日	水	「丹波の森公苑」(人と自然部会) 14時～16時	丹波の森公苑2fセミナー室

## 「ナラ枯れ」防除に、手作り装置が威力を発揮！ってほんと？

★今、丹波地方で「ナラ枯れ」が猛威を奮っています。市島町の山が枯死木で灰色、の写真がインターネットに掲載されている。兵庫県もようやくナラ枯れ防除に乗り出す構え。だが、申し訳ないけどお役所仕事、早い対処は期待できません。被害が拡大して、対処困難の状態になってから「ああだこうだと」慌てふためく姿が想像できます。県の森林課に防除に対処する為の助成金はありませんか？と問合せをしたら、即座に助成金はありません！と返事は早い。今なら助成金5万円ほどあれば完璧に防除できます。「里山ごんげんさん」のあべまきの大木1本に入り込んだ枯死菌を媒介する大量の「カシナガ」虫は今春から7月にかけて、新成虫が他の木をめぐって飛び立ちます。飛び立つ前に、やっつけないとエライコトになります。丹波地方全域のナラやカシ類の大木が全滅する。人手とお金が追いつかない。春や夏に灰色の山を見たいのですか？枯れた木から枯れ枝が数年間に亘って落下する。危なくて山に近寄れない。そんな現実が目の前に来ているのです。

★読売新聞12月5日科学面に「ナラ枯れ防止に手作り装置」と題して、ナラ枯れ防除の具体策が掲載され、会員さんが参考にと送って下さった。

ペットボトルを再利用した漏斗状の捕獲装置を木に吊るすだけの簡単な方法で、病原体を運ぶ甲虫を捕えることに成功。京都市北区の国史跡・船岡山では、この夏だけで30万匹を駆除し、木の枯死がほとんど生じないという効果をあげた。とのこと。廃品のペットボトルの注ぎ口から10cmの部分を取り、逆さまに30個つないで木につるすという捕獲装置。甲虫が入りこむと滑って出られなくなり、一番下のエタノールが入った容器に落ちて死んでしまう仕組み。

これならお金はかからない。1本の木に90本のペットボトル（2L）が必要、里山ごんげんさんには樹齢50年以上の大木が10数本あり、1000本のペットボトルが必要。装置の制作は簡単ですが、多くの人手が必要です。多くの人手？それは小学校です。里山で自然観察授業を実施している地域の2小学校との協働で「ナラ枯れ」防除に努めたい。

